

## 状況の変化に適した 車内の安全確保のために！ 乗務員だけに頼るな！ 具体的な対策を！！

### 「平成31年度安全対策の推進について」経営協議会開催

本部は4月18日、平成31年度安全対策の推進について経営協議会を開催しました。会社から平成30年度に関する事故等の状況と31年度の方針について「鉄道運転事故の発生件数は13件、インシデントが2件の発生。輸送障害・運転阻害の発生は4555件。責任事故の発生件数は、社員が117件で過去最少、関係会社が17件。労働災害の発生件数は社員が14件、関係会社が32件、死亡災害は発生しなかった。四大災害は14件発生した。会社としてこれまでのものを踏襲し、今後もソフトハード両面から、人、しくみ、設備で運転事故の防止と労災の根絶に取り組む」との説明がありました。

本部は、会社の説明に対する質問や意見の他に、増加する訪日外国人などに鑑み、人のみに頼らぬ現状に即した車内の安全確保、台車の事故など車両の安全に関する問題、地震など自然災害に関する安全対策、リニアの陥没事故などについて具体的な質問を行いました。

「人に頑張ってもらおうと言うのなら、その前に十分な休養を取らせるなど、人に余裕を持たせる環境にすべきだ。そうせずに、あれやれこれやれと言っても絵に描いた餅だ」「車内で置き場所のないスーツケースがコロコロ転がっている状況だ。対応にも限界がある。そもそも車掌長1人では対応しきれない。対応のための臨時列車、設備、要員などやれることは多くある」「警備員の乗務する列車が分からないし、どこまで警備できるのかも分からない。連携が全くない」「リニアでの陥没事故の責任は発注元のJR東海ではないのか」などの質問を行ないました。

安全問題は絵に描いた机上の理想で守れるものではありません。常に現状に即した具体的な対応対策が問われます。

**JR東海労は、今後も現場に即した安全追求を行っていきます。**